ケーベル先生文献（その三）

関根和江

展覧会「ケーベル先生とその時代」（芸術振興財団、東京芸術大学音楽学部、台東区芸術・歴史協会共催、奏楽堂復元開館10周年記念奏楽堂秋の特別展、1997年10月7日～11月3日、旧東京音楽学校奏楽堂）のために収集した文献の内、今回は「新聞記事」を紹介する。ラファエル・フォン・ケーベル博士来日以後、初めてその名が新聞紙上に現れた明治27年5月4日から、大正12年6月14日に亡くなるまでの氏に関連する新聞記事を中心に収録した。

凡例：

(1) 関連のある新聞記事は一つの項目にまとめ、記事毎にセミコロンで区切った。各記事は日付順、日付が同じ記事は新聞名の五十音順に並んでいる。記事の記載内容は、記事の見出し、記名の場合は著者名、新聞名（の略字）、掲載の年月日、音楽会の開催日時・場所、「ケーベルに関わる記述」である。

(2) 項目は記事の初出日の順に並んでいる。

(3) ＊は、ケーベルの名は記載されないが関連のある記事を表す。

(4) 略語で表した新聞紙名は以下のとおりである。朝＝東京朝日新聞、東＝東京日日新聞、都＝都新聞、読＝読売新聞、JWM=Japan Weekly Mail。

6 ケーベルに関する文献 Bibliographies

6.3 新聞記事 Newspapers

＊慈善音楽会広告　朝　明治27.5.4　5月5日鹿鳴館；鹿鳴館に於る慈善音楽会　読　明治27.5.4「明日午後八時より山下町鹿鳴館に於て本郷貧民如鴿学校基本に充つる為め慈善音楽会を開き音楽学校教授チツトリヒ・文科大学教授ケエベルキ・山勢松韻・琵琶会々長吉永經和の諸氏及び遠山・麻生・橘・松野の諸令嬢其他今井慶松・萩岡松阿・山室保嘉・グリフキン・ラムゼゲル・ケスレルの諸氏各妙技を演ずる由」；＊慈善音楽会広告　読　明治27.5.4；＊慈善音楽会　朝　明治27.5.8

Madame Minnie Hauk at the Public Hall. JWM　1894.6.9　6月7日パブリックホール「...The fourth number on the programme was the pianoforte and violin duett by

Professors von Koeber and Dittrich. Tartini's Sonata in G Minor proved a dream of pure delight as expounded by these skilled musicians, for the violin in Prof. Dittrich's hands becomes a thing of life, speaking in many a joyous strain, though under them all is heard that "deep melodious wail as of souls in pain." Everyone wanted to hear the gem again, but the players would only bow their thanks...」

＊日本音楽会員ニ公告　東　明治27.6.12　6月16日鹿鳴館；鹿鳴館に於る日本音楽会　読　明治27.6.15「明十六日午後八時三十分より鹿鳴館に於てヂトリヒ氏送別の為め音楽会を開く其演奏曲目ハ左の如し…洋琴及バヰオリン聯弾メーエルベール作、ヒユーグノツト「歌劇の大幻想曲」（タルベリー、ベリオ作曲、ケーベル、ヂトリヒ奏）…」；＊ヂットリヒ氏送別音楽会　東　明治27.6.16

＊大音楽会　読　明治28.5.17第3面　5月18日青年会館；＊大音楽会　読　明治28.5.17第6面；＊大音楽会　読　明治28.5.18

Signorina Estrela Belinfante gave a second concert in Yokohama on Thursday evening. JWM　1895.8.3　8月1日パブリックホール「...She was assisted by, among others, Professor Koeber of Tokyo.」

帝国文学第十　朝　明治28.10.12　出版広告「…希臘古代の詩歌及音楽　哲学博士ラファエル・フヲン・ケーベル…」

＊模範的貧児学院　東　明治28.11.20　11月23日青年会館；模範的貧児学院　読　明治28.11.21「…洋琴独弾（リスト及ワグナル氏作曲）「和蘭人の糸とりの歌」（ケーベル君）…」；＊慈善音楽会　朝　明治28.11.22；慈善音楽会　朝　明治28.11.23「…大学教授博士クーベル君ピヤノ独弾…」；慈善音楽会　東　明治28.11.23「…大学教授博士クーベル君ピヤノ独弾…」；慈善音楽会　読　明治28.11.23「…大学教授博士クーベル君ピヤノ独弾…」；＊慈善音楽会　朝　明治28.11.26

帝国文学第二巻第二　読　明治29.2.10　出版広告「…希臘古代の詩歌及音楽　ドクトルケーベル…」

大音楽会　読　明治29.3.14　3月14日青年会館「…ピヤノ独奏　帝国大学講師ケーベル君…」

The Tokyo Dramatic and Musical Society. JWM　1896.4.25　4月23日奨励会ホール「...Dr. von Koeber followed with a *fantaisie* of Bach's. Of this gentleman's playing we need not speak. He is certainly the greatest pianist that has ever visited Japan...」

慈善演芸会　朝　明治30.4.28　5月1日中央会堂「…ピヤノ独弾（ドクトルケーベル）…」；慈善演芸　読　明治30.4.28「…大学教授ケーベル氏のピヤノ独弾…」

慈善音楽会　東　明治30.5.27　5月29日奏楽堂「…大学教授ケーベル氏…」；慈善音楽　読　明治30.5.29「…ケーベル博士…」

音楽会演奏批評（上）　神樹生　読　明治30.12.1　11月27日中央会堂　「…第七、ケーベル氏ピヤノ独弾　これや洵に本会の白眉なるべし、何処の音楽会にても、余輩の常に聴くを楽しむ者ハケーベル氏にして、深く其独特の技倆に感じ居たりしが、更に本会に於てハ一層敬慕の念を起したり、曲目にハ其名ハ掲げられざりしが、はじめハ正しくメンデルソン氏の無言歌にして、中段ハウエーベル氏のモートーペルペートなるべし、而して喝采の感謝のためにとて弾ぜし最終の一曲ハ、ショペン氏のエチユードなるべし、此のエチユードの曲の如きハ、余輩の常に耳にせる所のものにして、格別の曲とも思はざりしが、今茲に氏が老練なる弾奏によりて、はじめて其神髄とせられたり、思ふに如何なるポピュラルの曲も一度氏の指に觸れてハ大曲の如く、如何なる難曲も軽快なる如くに感ぜらる、ケーベル氏ハ優に音楽家たるに愧ぢずといふべし…」；音楽会演奏批評（下）　神樹生　読　明治30.12.2　「第二部　第一、ケーベル氏ピヤノ　余輩ハ幸にして茲に至りて再びケーベル氏の一曲を聴くを得たり、曲ハたしかにショペン氏作のウオルツの調なり、其口調の清爽にして軽快なる、聴くものをして、坐ろに身の進むを知らざらしむ、曲終るに及んで、喝采の声ハ百雷の一時に落つるが如し…」

慈善音楽会　読　明治31.3.16　3月19日奏楽堂　「…大学教授ケーベル氏…」；＊慈善音楽会　読　明治31.3.19；＊慈善音楽会演奏批評　神樹生　読　明治31.3.24；慈善音楽会演奏批評（承前）　神樹生　読　明治31.3.25　「第一部（つゞく）（四）ピヤノ独奏ハケーベル氏のピヤノソロにて曲ハベートホーベン氏作の第廿一番ソナタなりき…ケーベル氏が悠然登壇し来りて沈着にアレグローを弾かれしスタテンの音ハ既に先づ天狗連の及ぶ所に非るを示されたり予ハ曾てベートホーベン氏のソナタを調べしことありしが今氏が弾法の自在にして自家の考案を交へ想像を加へ、殊にロンドー中の一部が悉く同氏の作り替へに係りて殆んど別物の如くに感ぜらるゝを聴きて衷心私かに慚愧に堪へざるものありき原符を其儘弾くすらも尚ほ且つ非常の困難なるに変転自在の弾法能く斯くの如くなるに至ってハ無論に痩腕輩の及ぶ所にあらず…ピヤノ大家ハ概ね斯くの如き乎予ハ平素ケーベル氏の技術に敬服せる者なりしが今回に至りて益々其尊敬を高めたり斯る手腕なりしかバ同氏も亦非常の喝采を博して再び一曲を奏するの已を得ざるに至りき…（六）バイオリン独奏夫のユンケル及ケーベル両氏の合奏なれバ吾人ハ固唾を呑んで待ち受けたり、曲はベートホーベン氏作ソナタ中のエフドウール第五番にて其一部は曾て幸田、内田の両令嬢が青年会館に紹介されたることなれバ吾人ハ大に之に付ての音楽上の知識を有し居たり但だ今ハ其全体なれバ演奏非常に長かりしかども両氏の手腕ハ吾人に些の倦労を感ぜしめずして非常の喝采中に奏了せられたり…」；慈善音楽会演奏批評（承前）　神樹生　読　明治31.3.26　「…今氏［エリッス］とケーベル氏とを比較せんか…斯る大家に向つてハ素より批評も覚束なしとハ云へ、一箇の素人考へを以てする時ハ微細にして且つ艶麗なる点に於てエリッス氏ハ寧ろケーベル氏に一歩を譲れりと言はん歟然れ共是れ素より一ツの盲評たるに

過ぎざるなり（つゞく）」；慈善音楽会演奏批評（承前）　神樹生　読　明治31.3.27「…ケーベル氏の手腕ハ予が數々本紙に於て紹介せし所なれバ今更めて言ふの要なし但だ氏ハ哲学家なれども無論に立派の音楽専門家なりと称するも過言に非ずと云ふを一言し置かん…」

明治音楽会演奏会　東　明治31.6.9　6月10日青年会館「…洋琴ケーベル博士…」；一筆だより　拙苗子　読　明治31.6.17「…中にも有名なるケーベル氏のピヤノ猫の恋とでも曲名がつきさうにて面白き事譬ふるにもの無く雄猫の背を高くして敵に向ふ所家根裏を走り廻る容子ニヤゴニヤゴフーフーと鳴きながら物干より轉げ落る様など真にせまり流石素人の聴衆にも是ばかりハよく解りたる者と見へ喝采志ばしハ鳴も止まず氏も大に満足の容子に見受け申したり」；＊第五回明治音楽会批評　神樹生　読　明治31.6.25；第五回明治音楽会批評（続き）　神樹生　読　明治31.6.26「(第七）ピアノ　吾人が当日の聴きものとして待ちに待ちたるケベール博士のピアノ独奏は非常の喝采中に弾き始められたり、博士はルビンスタイン氏の高弟にして所謂ルビンスタイン及リストの流に在るものなるが当日演奏されしハ其十八番中の二曲にして甲ハワグ子ル氏の曲をリスト氏の編成したるフリーゲンデンホルレンデル歌劇の糸取り歌の部分なりき、而して博士の弾法ハ予が是まで幾回となく称賛し置きたれば今更別に評し様もなし、乙ハ博士が最も得意とするルビンスタイン氏作のバルカロールなりしがオクターフにて半音階に上行する所又ハ軽妙なる指の使法にて迅速にコルドを出す所等いかにも評しやうなし、然るに本月十七日の本紙一筆便の欄中に掲げられたり拙苗子とか云ふ人の投書ハ『ケーベル氏のピアノを聴きたるに其の弾奏ハ猫の恋のフーフーニアニア双猫相争ひて物干より轉げ落ちるが如く、我々素人にも大に面白かりし云々』の意味を描出されたりき仮令素人評とハ云へケーベル博士のピアノも猫の孳尾に比べられなば弾奏者は云ふも更なり力瘤入れたる吾々聴衆にも余りの酷評とハ思はるなり、いかにとなればケーベル博士の音楽に有名なるハ実に東西人の普く敬服し居る所なるべけれバなり。

斯くて右の二曲了るや喝采満場暫時鳴りもやまざりけれバ博士ハ再び演台に登りて新に一曲を報はれしが其ハリスト氏作中有名なる「鶯」と題する曲にて前の二曲にも劣らず殆んど吾人が想像し能はぬ程の妙味をつけて弾き了られしハ誠に当日第一の聴きものにて常生に幾倍せる多数の傍聴洋人が此演奏了るや否や悉く退場せしに見るも博士の英名ハ充分解し得らるゝなり、但し当日博士の用ひられたる楽器ハ余り良からずして微妙の所悉く顕はすに堪へざりしハ非常に遺憾とする所にて博士に対し甚だ気の毒に思はれたり。

要するに本会の成績として先ず其新らしき現象を示せバ、頗る気六ケ敷ケーベル博士が本会の演奏台に立たれし事…」

Concert in Tokyo. JWM　1898.10.22　10月15日奏楽堂「...We need scarcely say that nothing contributed more to the success of the concert than Professor von Koeber's

pianoforte accompaniment. Very great disappointment was felt that this singularly gifted amatueur did not play a solo. The Musical Academy has now a piano worthy of his use, but how long it will retain its condition is problematical, and to the last moment there was a hope on Saturday that Professor von Koeber might be heard alone...」

東京青年会音楽会　朝　明治31.11.3　11月5日奏楽堂　「…ピヤノ独奏ケーベル博士…」；「東京青年会ハ…」　読　明治31.11.3　よみうり抄　「…第一部…ピヤノ独奏博士ケーベル…第二部…ピヤノ独奏ケーベル…」；東京青年会大演奏会　読　明治31.11.4　「…ケーベル博士（ピヤノ）…」；東京青年会大演奏会　朝　明治31.11.5　「…ケーベル博士（ピヤノ）…」；東京青年会大演奏会　読　明治31.11.5　「…ケーベル博士（ピヤノ）…」；＊東京青年会慈善音楽会演奏批評　神樹生、霞里生　読　明治31.11.11；東京青年会慈善音楽会演奏批評（承前）　神樹生、霞里生　読　明治31.11.12　「三、バイオリン、セロ、ピアノ三部合奏　此所に現れたる演手ハ四十余年昔浦賀湾頭に初めて文明の旗をかへせし米使ペルリ氏の外孫ドクトル、ペルリ氏の令嬢二人とピアニストとして名ある当日の立物ドクトル、ケーベル氏との合奏にて…ケーベル氏の先発に続きて弾じ初めたり…細微にして合奏にハ殊にむづかしきピアノの調よくタクトを失せず静に美しく奏し了たるハ流石に本場仕込と謂ふべし…ケーベル氏のピアノの滑かにしてエキスプレッションに富みよく全曲を導きしハ敏腕にあらざれバ能はざる所ならん…四、独唱　バスの歌手フリードランデル氏ハ夫のワグ子ルの大作ターンホイゼル歌曲中よりウオルフラーム氏の編みかへたる一部を独唱したるが伴奏者ハケーベル氏にして…」；＊東京青年会慈善音楽会演奏批評（承前）神樹生、霞里生　読　明治31.11.13；東京青年会慈善音楽会演奏批評（承前）　神樹生、霞里生　読　明治31.11.14　「…第二、バイオリン及ピヤノ合奏　バイオリンの名手ユンケル氏と文科大学教師哲学士ケーベル氏との合奏にして曲ハ予輩の未だ一回も聴ざるもの故委しく分らねど正しくリスツト氏曲なるべし何にせよ当日の立物二人の合奏なれバ曲の性質隠静にして内に励情（ライツエンド）の処あり拍子ハ静かなるも曲意厳に中途にて□調に変ずる処調者をして恍惚たらしめたり真に本日の聴物なりき…第三、ピアノ独奏　嘗てモスコーに於て有名なるルビンスタインを師とし斯道を研究したるドクトル、ケーベル氏ハ先年来已に諸方の音楽会に腕を鳴らして好音家を満足せしめられしが今回もまたますます其技を発揮せられたるものといふべく奏曲第一ハ夫の絶世のピアノ名手として不幸短命なりしベルリン宮中音楽師タウジヒの作ドメンコ、スカルラツテイの牧歌より編したるパストラールなり第二ハ同氏作のアンレグロ、ウヰローケにて当日の技倆ハ一点の難ずべき処なく弾法極めて美且つ甚だ真面目なりしかバ満場の喝采志ばらくハ鳴りも止まず遂に同氏をして再び壇に上らしめたり此に於て氏ハ再びフリユゲルに向ひ有名なるリスツト氏のロツシニヨール、シャンソン、ルッスを弾奏し是また円満の出来にて下られたり…当音楽会ハ実に近頃希に見る程の大会にて諸音楽の名手ハ殆んど網羅して余さずユンケル、

ケーベル、幸田の諸氏皆な一堂に集る亦た壮なりといふべし…ケーベル、ユンケルの両氏ハ勿論幸田両嬢の出来亦た並びて平凡にあらず…」

＊秋季音楽会　朝　明治31.12.2　12月4日奏楽堂；＊音楽学校秋季演奏会　楽石生　読　明治31.12.11；音楽学校秋季演奏会（承前）　楽石生　読　明治31.12.12「第十一ハ当日の呼物ケーベル氏のピヤノ独奏曲ハショパンの「シエルツ」なりき情熱に富みし此作家の曲を当時我国に比するものなき妙手によりて奏されし事なれバ、我れ等が批評がましき事云ふべきかぎりにあらず…ケーベル氏の演奏ハ寧ろ勇健塊奇の中に、閑雅の様を包含せり…」

Herr Yunker's Concert. JWM 1898.12.24 12月21日パブリックホール「...We, at all times, bow with reverence before the great talent of the Tokyo *virtuoso*—Professor von Koeber—and were delighted to see and hear him again in Yokohama... These numbers were all well done; Herren Junker and von Koeber shining preeminently in their respective solos, while the ensemble playing was distinctly good and effective. Altogether the instrumental work was a fine display of executive ability, and well merited the applause bestowed upon it. Mrs. James Walter and Mr. R. Seel contributed songs with marked success, and Professor Von Koeber increased our debt of gratitude by playing the accompaniments throughtout the evening...」

「京都同志社卒業の後…」　読　明治32.1.2「京都同志社卒業の後東京帝国大学教授ケーベル氏の許に在りて音楽を学びつゝありし松田幸と呼べる婦人ハ年二十一二ばかり天真爛漫最も音楽の天才に富めるの人なるが氏の推薦にて音楽研究のため舊臘独国留学の途に上れり」

慈善音楽会　読　明治32.1.13　1月21日中央会堂「第一部…第六ピアノ（ケーベル氏）…第二部…第四ピアノ（ケーベル氏）…」；＊一ト口投書　朝　明治32.1.16；＊「本郷哀悼生よ…」朝　明治32.1.19第3面；＊慈善音楽会　朝　明治32.1.19第5面；＊慈善音楽会　読　明治32.1.20

外人の眼に映ずる日本（四十）　読　明治32.4.11

外人の眼に映ずる日本（四十一）　読　明治32.4.12

外人の眼に映ずる日本（四十二）　読　明治32.4.13

外人の眼に映ずる日本（四十三）　読　明治32.4.14

＊音楽演奏会　朝　明治32.4.22　4月23日奏楽堂；音楽学校春季演奏会　読　明治32.4.23「…ヴァイオリン、ピアノ合奏（ソナタ）アウグスト、ユンケル、ラファエル、フォン、コイベル…」；＊東京音楽学校春季演奏会　楽石生　読　明治32.4.27；東京音楽学校春季演奏会（承前）　楽石生　読　明治32.4.28「…ヴワヰヲリン及ピヤノ連奏当日の呼物にて「ユンケル」「ケーベル」二氏の連奏なり曲ハ当代一流の作家「ルビンスタイン」の「ソ

ナタ」なれバ悪からむ筈なし、花の如く艶ある「ユンケル」氏の「ヴワヰヲリン」と月の如く清かなる「ケーベル」氏の「ピヤノ」とよく「メンデルスヅーン」に至り「リスト」と争ひたる、此作家の曲を傳へたり、只感嘆の他なし…」

同声会春季音楽演奏会　東　明治32.5.6　5月7日奏楽堂　「…ケーベル…」；同声会春季音楽演奏会　読　明治32.5.7　「…ケーベル…」；＊同声会春季演奏会　楽石生　読　明治32.5.10；同声会春季演奏会（承前）　楽石生　読　明治32.5.11　「器楽に於て最も多く聴衆を喜ばしめしハ「ユンケル」「ケーベル」二氏の「ヴァヰヲリン」「ピヤノ」の合奏なりき…「ケーベル」氏の「ピヤノ」も一層清雅なりき…瀧氏の…其奏法のいたく「ケーベル」氏に似たる事よ「タステン」をたどる手つき「ペタル」の用方発情の具合それのみか頭の振り方迄も偖よく似せたるもの哉…瀧氏等「ケーベル」氏が体を前後して様子ぶりたる所を何んとなく習ふ様の風あり…」；＊同声会春季演奏会（承前）　楽石生　読　明治32.5.12

Chamber Concert. JWM 1899.5.13　5月11日パブリックホール　「...Professor von Koeber's piano soli were perhaps the instrumental gems of the evenig, his Berceuse from Chopin being especially enjoyable...」

＊卒業式一束　読　明治32.7.4　7月8日奏楽堂；＊東京音楽学校卒業式音楽演奏会　楽石　読　明治32.7.13第3面；＊東京音楽学校卒業式　読　明治32.7.13第4面；東京音楽学校卒業式音楽演奏会（続き）　楽石　読　明治32.7.14　「…伴奏ハ「ケーベル」氏のことなれバあかぬ節なく「ヴァヰヲリン」を引き立てつゝも十分に「ピヤノ」をきかす様流石なり…」

秋季音楽演奏会曲目　読　明治32.11.23　11月25、26日奏楽堂　「…ヴァイオリン、ヴィオラ、及ピアノ（シンフォニー、コンセルタンテ）アウグスト、ユンケル、幸田延、フォン、コイベル…ヴァイオリン及ピアノ（ソナタ）アウグスト、ユンケル、フォン、コイベル…」；＊音楽学校秋季演奏会　読　明治32.11.30；＊音楽学校秋季大演奏会批評　読　明治32.12.3；音楽学校秋季大演奏会批評　黄華生　読　明治32.12.4　「…第四「ヴァイオリン」、「ビオラ」及び「ピアノ」、合奏「シンフォニーコンセルタンテ」ハ当日の呼物の一つにて流石ハ当代名家の演奏とて非難すべき点更になく三名家が絶妙なる手腕にハ感嘆の他なし…第八「ヴァイオリン」及「ピアノ」合奏「ソナタ」ハ是ぞ当日の大立物なるユンケル及コイベル二大家が妙腕を奮はるゝ所にして千有余の聴衆が今や遅しと待ち構へしことゝて二氏の演壇に顕はるゝや一同拍手喝采して之を迎へたりコイベル氏が「ピアノ」を弾ずる様ハ猛虎の巌頭に嘯くが如くユンケル氏が「ヴァイオリン」ハ龍の雲間に駈るが如し美音ハ妙音と相応じ至絶至妙聴衆皆酔へるが如くさしもに広き楽堂も寂として水を打ちたるが如し軈て演奏終るや一斉に拍手喝采する響ハ百雷の一時に落つるかと疑はれたり…」；近時の二演奏　楽石生　読　明治32.12.8　「…当日第一の呼物ハ幸田嬢とユン

ケル、ケーベル二氏との「トリオ」「モツアルト」の「ジンホニーコンセルト」なりしなり…」；近時の二演奏（承前）　楽石生　読　明治32.12.9「…ユンケル、ケーベル二氏の連奏にて「クラシック」の三の矢を受けし苦難ハ如何ばかりなりしよ…第二部に於けるユンケル、ケーベル二氏の連奏「ベートーベン」ハあらずもがなと思ひぬ志かも其演奏も甚だしく不親切にして多少聴衆を無視せし傾ありしに於いてをや…瀧氏の「ピヤノ」独奏ハ同氏の技術の多少進歩せしと同時に氏がケーベル氏を真似る技量も大に上進せる事を証せり…」

＊慈善音楽会　読　明治33.2.8　2月16日女子奨励会；慈善音楽会　東　明治33.2.18「…音楽学校教授ユンカー、同デビス、同クエーベル…」；慈善音楽会の光景　読　明治33.2.18「…音楽学校教師独逸人ユンカー、デヴィス、キョーベル三氏…」

＊東京音楽学校　朝　明治33.5.15　5月20日奏楽堂；＊東京音楽学校　読　明治33.5.15；＊春季音楽演奏会　朝　明治33.5.16；＊東京音楽学校　読　明治33.5.18；＊東京音楽学校春季演奏会　読　明治33.5.22

印度飢饉救済慈善音楽会　東　明治33.7.13　7月14日奏楽堂「…ケーベル大学教授…」

音楽会　東　明治34.3.14　3月15日メトロツポールホテル「…演奏者ケーベル博士其他諸氏…」；音楽会　読　明治34.3.14「…演奏者ケーベル博士其他諸氏…」；音楽会　東　明治34.3.15「…来賓ケーベル博士其他諸大家の演奏もあるべしと」；築地の音楽会　読　明治34.3.15第1面「…来賓ケーベル博士其他京浜諸大家の演奏ある由」；音楽会　読　明治34.3.15第6面「…演奏者ケーベル博士其他諸氏…」

慈善音楽会小言　東雲の友　読　明治34.4.14　4月10日奏楽堂「…伴奏ハケーベル博士で、之ハ納所氏の栄とせらるゝ処であったらう…四、バイオリン独奏　幸田ノブ子　兎角の評ハ野暮である、独奏といふよりハケーベル博士との合奏の様に感じた、メロディーが掛合になるあたり、何ともいひやうがない、如何なるはづみか譜が間違って一枚まくれたやうに思はれたが、さすが老練家で少しもわからぬ様に其のボロをかくされたにハあっと感服した、ピアノがメロディーになり、バイオリンが伴奏のやうになる辺り余りにバイオリンが響かなかった、エキスプレッスに加減されたことハよく受け取れたが、釣合といふことをもちと御一考ありたいと感じた…」；慈善音楽会小言（続き）　東雲の友　読　明治34.4.15「…三、ピアノ独奏　博士ケーベル氏　満場の拍手に迎へられて例の如く厳然泰然として登壇された、演奏して居られるのか、おもちゃにして居られるのか分らない程、如何にも自由自在なものであった、同じピアノで何うしてあゝ音が違ふのか覚えず感嘆した、実に奇絶、妙絶で真に他を思ふの余裕ハ念頭になかった、演奏が終ると拍手ハ満場から起って暫くハ鳴りやまなかった、乃で博士ハ答礼の一曲、静粛なる一曲を奏して又々大喝采中に降壇された…」

女子大学開校式　東　明治34.4.21　4月20日女子大学「…ドクトルケーベル氏の祝詞

…」；女子大学校開校式　読　明治34.4.21 「…次にドクトルケーベル氏の祝歌あり…」；女子大学開校式　朝　明治34.4.22 「…ドクトル、ケーベル氏の祝歌…」

＊音楽学校行啓　朝　明治34.5.31　6月4日奏楽堂；＊上野音楽学校　読　明治34.6.2；＊皇后宮上野行啓　朝　明治34.6.5；微妙じき『君が代』 中央新聞　明治34.6.7 「…さて当日演奏の中殊に堪能の評を博したるは…教師ユンケル、コイベル両氏のヴァイオリン、ピアノ等にして…」

＊秋季音楽会期日変更　読　明治34.11.30　12月7、8日奏楽堂；＊音楽会の延期　朝　明治34.12.2；秋季音楽会曲目　読　明治34.12.4 「…一ヴァイオリン、ピアノ　教師アウグスト、ユンケル　教師ラフエール、フォン、コイベル　ソナタ　バハ作曲…」；＊音楽学校　朝　明治34.12.6；＊音楽学校の秋季音楽会　読　明治34.12.6；＊音楽学校秋季音楽会　読　明治34.12.8；上野音楽学校の秋季音楽会　萬朝報　明治34.12.9 「…此他ユンケル及びケーベルのヴアイオリン及びピアノの合奏の如き何時もながら感服の外なく…」；音楽学校の秋季演奏会　国民新聞　明治34.12.10 「…ユンケル教師のヴァイオリン、コイベル教師のピアノ合奏は当日に於ける聞物として大喝采を博したり…」；＊東京音楽学校秋季演奏会評　楽狂生　読　明治34.12.11；＊東京音楽学校秋季演奏会（上）　五線子　中央新聞　明治34.12.12；東京音楽学校秋季演奏会評（つゞき）　楽狂生　読　明治34.12.12 「…四、ヴァイオリン、ピアノ、ソナタ　バハ作曲、教師アウグスト、ユンケル氏、教師ラフエール、フォン、コイベル氏日曜日ハ都合上ピアノ独奏と前後せり此演奏いふべき詞もなし、目前の両教師ハありやなしやバハの面影忽ちに現はれいでゝ生きたる声の談話神々しく、近頃に二なきよき音楽を聞きたり…」；東京音楽学校秋季演奏会（下）　五線子　中央新聞　明治34.12.13 「…両氏［コイベル、ユンケル］合奏の曲は有名なるバゝのソナタ、誰やらが両氏を春の花と秋の月に比したのは実に面白い比喩で、ユンケル氏の華美なる弾き方と、コイベル氏の幽雅なる奏し方とは極めて好く調和して云い様のない面白みがある…コイベル氏の軽妙なるピアノは真に水晶盤上珊瑚の珠を轉すが如きものである…成績に従って仮りに此日の演奏に順序を附ければ、第一が島崎氏のオルガン、次が幸田嬢のピアノ、次がコイベル、ユンケル両氏の合奏…」

慈善音楽会　東　明治35.1.23　2月1日帝国ホテル 「…独逸音楽大家ユンケエル氏のヴァイオリン、同キヨーベル氏のピアノ等数番あり…」；慈善音楽会　読　明治35.1.23 「…独逸音楽大家ユンケル氏（ヴァイオリン）同キヨーベル氏（ピアノ）等の演奏あり…」；慈善音楽会　読　明治35.2.2 「…出演者ハケーベル、ユンケル、幸田延子、ミス、カイザー、ミス、パリス等何れも斯道の大家にて幸田氏のヴァイオリン、ケーベルのピアノ、カイザー、パリス両嬢の舞踏ハ非常の喝采を博したりと」；＊外人の美挙　読　明治35.2.7

青森凍難軍人弔慰慈善音楽会　東　明治35.2.26　3月9日奏楽堂 「…ケーベル博士…」

＊春季大演奏会　読　明治35.1.31　3月15日奏楽堂；＊東京音楽学校の大演奏　東　明治35.2.27；＊音楽大演奏会　東　明治35.3.5；音楽大演奏会　読　明治35.3.5「ヴァイオリン、ピアノ（ユンケル、ケーベル）ソナタ（ベートーヴェン作曲）…」；＊本日の音楽大演奏　東　明治35.3.15；＊文相の音楽会　朝　明治35.3.17；菊地文相の大音楽会　読　明治35.3.17「…ユンケル、ケーベル両氏のベトウベン作曲のソナタをヴワイオリン、ピアノにての合奏…」；菊池文相の音楽会　東　明治35.3.18「…ソナタのユンケル、ケーベル二氏のヴァイオリン、ピアノ等ありて…」

大音楽会　朝　明治35.4.29第1面　5月3日中央会堂「…ケーベル博士始め…」；中央会堂音楽会　朝　明治35.4.29第3面「…ケーベル氏…」；中央会堂の大音楽会　読　明治35.4.29「…当日ハ有名なるケーベル博士を始め…」；＊音楽会　読　明治35.5.3

＊皇后宮上野行啓　朝　明治35.5.4　5月6日奏楽堂；＊皇后宮行啓　東　明治35.5.4；＊音楽学校行啓　読　明治35.5.4；皇后宮音楽学校行啓　朝　明治35.5.7「…一ピヤノ独奏　ムーンライト、ソナタ　ベートヴェン作曲　教師フォン、ホイーエル…」；皇后陛下の行啓　東　明治35.5.7「…ピアノ独奏　教師フォン、コイーベル、ムーンライト、ソナタ　ベートーヴェン作曲…」；皇后陛下音楽学校行啓　読　明治35.5.7「…ピヤノ独奏ムーンライト、ソナタ、ベートヴェン作曲　教師フオン、ホイーエル…」

＊慈善音楽会　読　明治35.10.6　10月18、19日奏楽堂；蝦夷救済音楽会　朝　明治35.10.12「…ケーベル博士は特に出演し…」；＊慈善音楽会　朝　明治35.10.16；慈善音楽会　読　明治35.10.16「…当日ハフォンケーベル氏も特に本会のために出席する由…」；北海道土人救育慈善音楽会　東　明治35.10.17「…ピアノ独奏（フォン、ケーベル氏）…」；＊慈善音楽会　読　明治35.10.18；＊北海道土人救育慈善音楽会　朝　明治35.10.19；＊恵の露の歌　読　明治35.10.20；＊アイヌ少年の奇特　朝　明治35.10.21；＊慈善音楽会　読　明治35.10.21；＊北海道土人救育会　読　明治36.11.17

精神病者慈善救治会の創立　読　明治35.11.23　11月29日奏楽堂「…第二部一、三部合奏（バイオリン、ユンケル君、ピアノ、ケーベル君、セロ、デビス君）メンデルスソーン氏作曲…」；＊精神病者慈善救治会音楽会　和製ハイカラ生　読　明治35.12.3；精神病者慈善救治会音楽会（続き）　和製ハイカラ生　読　明治35.12.4「第二部の西洋音楽が始まった、その第一ハ「メンデルソン」作曲の三部合奏であった、弾手ハ名にし負ふ「ユンケル」「ケーベル」「デビス」の三氏であったから、悪い筈もない…何にせよ此譜を一見した所でハとてもやさしい腕でハ弾けそうもないのが、三部集つて居るのだが、それを物ともせず弾いた三氏こそ実に驚き入ったものだ…兎に角僕ハ「カンメル、ムジック」でこんな面白い六ケ敷い合奏を聞いた事ハない、それで僕なんぞがとても評するとかなんとか云ふ資格ハない唯々恐れ入る許りだ、やがてこの曲も大喝采の裡に終りを告げて「ブラーボー」の声暫く止まなかったから三氏ハ終に二度叩き出された僕ハ生れて始めてこんな曲

を聴た…」；＊精神病者慈善救治会音楽会（続き） 和製ハイカラ生 読 明治35.12.6

＊東京音楽学校 朝 明治36.3.10 3月15日奏楽堂；山勢松韻氏記念音楽会 東 明治36.3.10 「…フォン、コイベル氏…」；東京音楽学校演奏会 読 明治36.3.10 「…ピアノ、ヴァイオリン合奏（フォン、コイベル、アウグスト、ユンケル）ソナター（ルービンスタイン作曲）…」；＊山勢松韻翁と紀念音楽会 毎日新聞 明治36.3.11；＊音楽会広告 読 明治36.3.11；＊音楽会広告 朝 明治36.3.12；＊音楽会広告 読 明治36.3.12；＊音楽会広告 朝 明治36.3.13；＊東京音楽学校 朝 明治36.3.15；＊東京音楽学校演奏会 読 明治36.3.15；＊東京音楽学校音楽会 朝 明治36.3.17

Kayser concert. JWM 1903.3.28 3月21日パブリックホール 「...This was followed by the Grand Scena from Weber's "Der Freischütz," which was well sung by the concert giver, who was fortunate in securing the assistance of Dr. von Koeber as accompanist... Professor von Koeber was magnificent throughout the evenig: not only did he charm us with his inimitable skill as a *virtuoso*: but he played the more important accompaniments like an artist, and thereby immensely enhanced the effect of Miss Kayser's interpretation of the excerpts from Weber and the more modern German school. Everything the Professor did was perfect from first to last, and the house fairly rose at him from time to time. We hope he will soon favour Yokohama with another visit...」

慈善音楽会 東 明治36.3.27 4月1日東洋英和女学校講堂 「…ケーベル博士亦ピアノの独奏をなす…」；慈善音楽会 読 明治36.3.27 「…ピアノ独奏（博士ケーベル）…」；慈善音楽会 読 明治36.4.1 「…ピアノ独奏（博士ケーベル）…」

＊春季音楽演奏会 朝 明治36.4.28 5月1日奏楽堂；＊春季音楽演奏会 東 明治36.4.28；＊春季音楽演奏会 読 明治36.4.28；＊春季音楽演奏会（東京音楽学校） 朝 明治36.5.1；＊上野の音楽会 東 明治36.5.1；＊音楽学校御成 朝 明治36.5.2；文相の音楽会 東 明治36.5.3 「…文科大学教授ケーベル博士の独奏…」；＊音楽学校春季演奏会評（上） 後凋生 読 明治36.5.7；＊音楽学校春季演奏会評（中） 後凋生 読 明治36.5.8；音楽学校春季演奏会評（下） 後凋生 読 明治36.5.9 「次ハ博士フォン、コエーベル。ユンカー師両氏の合奏にハイドリッヒ氏の伴奏を以てす、曲ハビューローが北方のショパンと呼びたるグリーグの「ソナタ」なり。スカンヂナビアの国民性を発揮せるもの此楽家を措きてあらずといふ。嘗て其評家が「名手の演奏をきゝて其人格や、演奏や、「テクニック」や將た其熱情を考ふる暇あるハ未だ感興其最高潮に達したるものもあらず。芸術家ハ一方に於て魔術家の如く全く有象以外に我等をひき批評をはなれ推理をはなれ真に美と自由との境に憧れ自我と宇宙と融合したるかを疑はしむるもの、之彼等が最高使命なり」と。余ハ此の如きものを此演奏に得たるなり、「テュッティ」の調ゆるやか

に始まりてより楽堂を忘れ人を忘れ聴衆を忘れ遂にハ音響其者を忘れて神秘の息に吹かるゝが如くなりしもの、之「パッソオ」の単調なる和弦の力なり。幽婉なる銀線の響なり。唯こゝに今日の演奏に於て博士と延教授との差とユンカー師と幸教授との差とを比する時、之実に量の差か將た質の差か、こハ心ある人の一考を煩はさんと欲するなり…」

稀有の慈善音楽会　読　明治36.5.24　6月6日奏楽堂　「…我国在留の洋楽家中の白眉にして欧州にも洋琴家として其名を知られし文科大学教師ケーベル博士の指導に本きて其曲目を編成したるもの…ケーベル博士が伴奏連奏を合して四回六曲を演奏せらるゝ一事なり…」

近時の演奏会を評し併せて明治音楽会諸氏に告ぐ　後凋生　読　明治36.6.28　6月6日一番町教会　「…六日の一番町教会慈善音楽会ハ新紙の予報の高かりし割合に結果の揚がらざりしを憾とす、此日「ケーベル博士」ハショパンの「プレルード」と外に小さき曲一ツ奏し給ひき…「プール」氏の「ヴァイオリン」ハよく奏し給ひぬ、されど之をユンカー氏と比せんハ誤なり、博士の伴奏を値せしや否や「弾き出さぬ前から指をふるはせて」とハ余りに皮肉なる評なるべし…」

オペラ会　読　明治36.7.25　7月23日奏楽堂　「…伴奏にハケーベル博士自ら労を執れり…」；＊歌劇研究会短評　鉄笛　読　明治36.7.26

片々　読　明治36.8.6　「宮中御雇音楽師ヅボラウイツチ氏及び大学教授ケーベル博士ハ数日前箱根宮の下に赴き目下彼地にて互に合奏研究しつゝありて同地滞在の外人等ハ争ふてこれを聴けりと」

明治音楽会演奏書目　読　明治36.10.25　10月28日青年会館　「…五、管絃楽、歌劇「ポルテチー」の唖の歌―ケーベル作…」

＊公益音楽会　東　明治36.10.25　11月28、29日奏楽堂；帝国教育会書籍館公益音楽会　東　明治36.11.8　「…廿九日にはケーベル、ユンケル両大家…」；＊帝国教育会　朝　明治36.11.12；帝国教育会公益音楽会　東　明治36.11.12　「…四、ピアノ独奏　ドクトル　フォンケーベル　甲、カウカスス　バラキエ作　乙、ケーニヒ、イン、ツーレ　リスト作…」；帝国教育会公益音楽会　読　明治36.11.12　「…文科大学のケーベル博士…」；＊公益音楽会発起人会　読　明治36.11.17；＊公益音楽演奏会　読　明治36.11.21；＊独逸音楽家と公益音楽会　朝　明治36.11.26；＊帝国教育会　朝　明治36.11.28；＊公益音楽会　朝　明治36.11.29；＊公益音楽会　読　明治36.12.2；＊帝国教育会公益音楽会　朝　明治36.12.10

謡曲に就て　倶楽部員筆記　読　明治36.12.18　「…ケーベルと云ふ人ハ公平なる人でありますが日本の音楽に就いて自分が感服するものが誠に少ない殊に下等な俗な音楽の如きハ寧ろそれを聞されるのが苦痛だと云ふ之を三百六十五日聞かされたら死ぬだらうと思ふ…」

＊日本音楽会　朝　明治37.5.17　5月21日奏楽堂；恤兵慈善大音楽演奏会　読　明治37.5.17「…ピアノ合奏、シンフオニツシエデイヒツンゲン（幸田延子フォンコイベル氏）…」

音楽学校演奏会　読　明治37.11.30　12月3、4日奏楽堂「…六ピアノ独奏、ケーベル…」；＊音楽学校演奏会　読　明治37.12.5；一昨日の音楽演奏会　時事新報　明治37.12.6「…ケーベル博士のピアノ独奏…」；音楽演奏会　菱生　読　明治37.12.6第1面「去四日の音楽学校の演奏会ハ曲目ハ大家の大作揃ひにて、演奏者ハ日本での一流の西洋楽師、近時の音楽会中での聴物なりき…ケーベルのピアノ独奏、シューベルトのハあまりに深遠にて何の感じも起らず、此頃よく世人の口に上る神秘とハこの如き曲をいふにや。ベトーヴェンのハ俗耳にも巧緻の味はるゝ心地す…ケーベルの名曲も只上手なり匠なりと思ふのみにて、吾人をして恍惚我を忘れて、其の曲其の音に同化せしむることハ、二流三流の日本の俗曲にも及ばざる也…」；＊ハガキ集　読　明治37.12.6第6面；＊故国の音楽　有楽生　電報新聞　明治37.12.9；音楽学校演奏会　鉄　日本　明治37.12.11「…六、ピアノ独奏　フォン、ケーベル氏の演奏にかゝり曲はリードの小なるものなるもアッコンパニメントの複雑せること甚しく共に聴衆の感興をひき難かりし…」；＊音楽雑感　あかざ生　朝　明治37.12.13；＊ハガキ集　読　明治37.12.21

審美学会生る　日本　明治37.12.17　12月21日中央会堂「…コエーベル博士、幸田延子嬢その他数氏のピアノ…」

管絃楽のコンダクター　日本　明治37.12.25「…ケーベル、ハイドリッヒ氏のピアノ…共に屈指のものには相違ないが…」

文科大学学生々活（十三）赤門の聖人　読　明治38.1.10「…十年も講堂に立ちて毎年々々変り行く学生の誰れにも敬せられ愛せられて、嘗て悪評を下されしことなきケーベル博士の如きハ、日本教授に此迄にも例のないこと。昔のリース、ハーンと共に良教師の三幅対にて、文学士連中の常に其の人々を敬慕の念の絶えぬのハ、学者として何よりも名誉であらう。先生ハ無妻主義にて、音楽を最愛の妻とし、憂きも悲みも一曲のピアノに忘れ、詩歌小説に閑日月を送り、紛々たる世上の俗事に心を乱すを厭へども、学生の訪問に接してハ、わが子の如く胸襟を開いて語り、濃かなる情愛の自づから溢れて、予等をして感涙を催さしむる事もある…」

軍人慰問音楽会　朝　明治38.1.28　2月11日奏楽堂「…ケーベル博士…」；大音楽会　東　明治38.2.3「…ケーベル博士…」；慈善音楽会　東　明治38.2.9「…一ピヤノ聯弾　バリアチヨ子ンユウバーアイ子テマフヲンベートベン　セン、セイン氏作　ケーベル博士、幸田延子嬢…一ピアノ独弾（一）インプロムプチュ　チョパン氏作　（二）キャプリス　ルビンスタイン氏作　ケーベル博士…」；＊慈善大音楽会　読　明治38.2.9；慈善大音楽会　朝　明治38.2.10「…一ピヤノ聯弾　バリアチヨ子ンユウバーアイ子テマフヲンベー

トベン　セン、セイン氏作　ケーベル博士、幸田延子嬢…一ピアノ独弾（一）インプロムプチュ　チョパン氏作　（二）キャプリス　ルビンスタイン氏作　ケーベル博士…」；＊軍人慰労音楽会　読　明治38.2.10；＊ハガキ集　十一日上野音楽会評　読　明治38.2.17

義勇艦隊賛助音楽会　東　明治38.2.19　2月18、19日華族会館　「…一ヴァイオリン独奏ドウブラフチツチ氏　ピアノ伴奏　ケーベル氏…」

＊府教育会の楽堂　朝　明治38.3.7　3月11、12日和強楽堂；＊和強楽堂音楽会　読　明治38.3.8；和強楽堂音楽大会　朝　明治38.3.11　「…十一日…ピアノ独奏　クエーベル氏出演…十二日…ピアノ独奏　クエーベル氏出演…」；和強楽堂音楽大会　読　明治38.3.11　「…音楽学校教師ケーベル…」；＊音楽会の二日　朝　明治38.3.14；音楽会の二日　朝　明治38.3.15　「…次にピアノ独奏、クエーベル氏の出演で楽堂はために一段の光彩を増したが、氏が銀糸を飾れるが如き鬚髯、高雅優逸なる風采、たしかに当代の名家として無比のピアニストたる重みが、満場を圧するが如く、吾等は轉に敬重の念に駆られて、其入神の妙技の魅する所となった、氏の双手が盤上に閃いて、春燕玉簾の前に翻り、秋月細漣の上に砕くるが如き巧妙、昂れる音は雷霆の天空に轟くもかくや、潜める音は悲風の軒頭を吹くもかくや、たゞたゞ軽妙に演じ終って満場の嘆賞を止めあへざらしめた、但し楽器のよからぬ為めか、幽韻長く伝はらずして、時に名手の技を現はし尽せぬ場合もあった…」

音楽学校演奏会　読　明治38.3.15　3月18、19日奏楽堂　「…ピアノ管絃伴奏コンセルト（メンデルゾーン作曲ケーベル教授演奏）…」；＊音楽学校演奏会　読　明治38.3.21；＊音楽学校演奏会評（上）　鐵腸　日本　明治38.3.22；＊音楽学校演奏会評（二）　鐵腸　日本　明治38.3.23；音楽学校春季演奏会　無耳生　読　明治38.3.23　「…五、ケーベル博士のピアノ、コンセルトメンデルゾーン作曲ハ何とも申上様なし、全く満堂の聴衆、盡く酔はされたり、管絃楽亦、当日の最たり…」；＊音楽学校演奏会評（三）［鐵腸］　日本　明治38.3.24；音楽学校演奏会　都　明治38.3.24　「…ビーゼ氏作のラルレジエンヌに於ても既にケーベル博士の伴奏（ピアノ）とユルケン氏の指揮とハ拍子が揃って居ないところが屡々あり且つ各部の疵ハ甚だ多い…ケーベル博士のピアノ、曲ハメンデルソンのコンセルト、博士の霊妙なる技倆ハ今更いふまでもないがいつもの活気ハ見えなかった、管絃伴奏で多少破壊された気味がある」；音楽学校演奏会評（四）　鐵腸　日本　明治38.3.25　「…ケーベル氏の独奏は両日ともに申分なかりし殊にその音色の如きも飄韻真に掬すべきものありて到底之を他の楽家に求むべからざるものなり。その一種の飄韻は崇厳を意味するといはんか、將た飄逸を含むといはんか、氏をして演ぜしむべきはビートベン、バハの荘厳なるもの、ハイドン、ヘンデルが荘重なるものにして、メンデルソーン以下の軽妙なるものは全く氏の頭脳感情及びその音色の飄韻ある事とに相突撃して遂にその技を振ふの所にあらさるべきなり…」

現時の音楽及音楽家（七）　春風道人　東　明治38.4.29　「…現に帝国大学の哲学教師を以て、兼ねて音楽学校にピアノの教授を嘱託せられつゝあるラッフェル、フォン、コイベルが実に露国人（波蘭土生れ）たるとの、除外例あるに過ぎず。中、コイベルは、音楽学校の教師に教師たる如き位置に居り…」

＊同仁会寄付音楽会　東　明治38.4.22　5月13、14日奏楽堂；＊同仁会寄付音楽会　東　明治38.4.25；＊同仁会寄付音楽会　東　明治38.5.10；同仁会寄付音楽会　東　明治38.5.11　「…（四）ピアノ及絃楽合奏エスヅール（コイベル、幸田幸子、ユンケル氏、デビス）…」

独国公使館大祝宴詳報　朝　明治38.6.7　6月5日独国公使館　「…ユンケル及ケーベル両氏のバイオリン奏曲あり…」；独国公使館の祝宴　東　明治38.6.7　「…音楽学校教授ユンケル及ケルベル両氏バイオリンの奏曲あり…」；独国公使館の祝宴　読　明治38.6.7　「…音楽学校教授ユンケル及ケルベル両氏バイオリンの奏曲あり…」

拐帯犯の俄か大盡　読　明治38.7.14　「…帝国大学法科大学教授露国人ケーベル氏の送り迎ひをさせ抱へ車夫同様にさせて置くうち去る五月廿四日ケーベル氏が大学より受取った給料五百八十円を自宅へ届けよと吩咐られて持帰る途中フイと気が変り…ケルベル氏の邸を覗ひしも犬に吠えられたので…ケーベル氏方から自転車を盗み出し…」

女子雑誌ムラサキ　朝　明治38.9.1　出版広告　「…日本の音楽は音楽に非ず　ケーベル教授…」

＊英国皇族殿下と大音楽会　朝　明治39.2.10　2月24日奏楽堂；＊慈善大音楽会　朝　明治39.2.18；＊英国大使の慈善音楽会　読　明治39.2.18；＊御滞在日割　朝　明治39.2.19第2面；＊英国大使の音楽会　朝　明治39.2.19第6面；＊英国大使夫人主催大音楽会　朝　明治39.2.24；＊東北飢饉救助大音楽会　読　明治39.2.24；＊昨日の国賓　朝　明治39.2.25；大使夫人音楽会　東　明治39.2.25　「…第四にケイベル、ユンケル、ミシット三氏の合奏…」；＊昨日の貴賓　読　明治39.2.25；＊英大使夫人の寄贈　読　明治39.2.27

上毛孤児院慈善大音楽会　東　明治39.2.23　3月3、4日奏楽堂　「…演奏者は洋楽にはケーベル…」

慈善音楽会　東　明治39.2.21　3月26日青年会館　「…ピアノ、ヴァイオリン合奏（ケーベル、ユンケル）ソナタ（ルビンスタイン）…」；東北飢饉慈善音楽会　読　明治39.3.21　「…ユンケル、ケーベル…」；慈善音楽会　読　明治39.3.28　「…第二部のユンケル氏、頼母木夫人、ケーベル氏のヴァイオリン、ヴィオラ合奏、小室千笑子の独唱、等の西洋音楽ハ皆喝采声裡に退場し…」

音楽会広告　読　明治39.5.9　5月20日奏楽堂　「…四ピアノ管絃合奏（司伴楽）フォン、ケーベル、職員生徒…」；＊音楽演奏会　朝　明治39.5.10；音楽会広告　東　明治39.5.10　「…四、ピアノ、管絃合奏（司伴楽）フォン、コイベル、職員生徒…」；＊東京音楽学校音

楽演奏会入場券発売広告　東　明治39.5.11；音楽会広告　朝　明治39.5.12「…四、ピアノ、管絃合奏（司伴楽）フォン、コイベル、職員生徒…」；＊東京音楽学校音楽演奏会入場券発売広告　朝　明治39.5.12；音楽会広告　読　明治39.5.12「…四、ピアノ、管絃合奏（司伴楽）フォン、コイベル、職員生徒…」；音楽会広告　朝　明治39.5.13「…四、ピアノ、管絃合奏（司伴楽）フォン、コイベル、職員生徒…」；＊東京音楽学校音楽演奏会入場券発売広告　読　明治39.5.14；＊東京音楽学校音楽演奏会入場券発売広告　読　明治39.5.15；音楽学校演奏曲目　読　明治39.5.16「…（四）ピアノ管絃合奏教師ドクトル、フォン、ケーベル、司伴楽ルビンスタイン作曲…」；音楽会広告　朝　明治39.5.17「…四、ピアノ、管絃合奏（司伴楽）フォン、コイベル、職員生徒…」；愈明日に迫る！！！／音楽会広告　朝　明治39.5.19「…四、ピアノ、管絃合奏（司伴楽）フォン、コイベル、職員生徒…」；音楽会広告　読　明治39.5.19「…四、ピアノ、管絃合奏（司伴楽）フォン、コイベル、職員生徒…」

閨秀音楽家の留学―俊才神戸絢子女史―　東　明治39.12.13「…ピアノ家としての女史は其の師ケーベル氏其儘の妙手にて…」

＊牛込教育音楽会　東　明治40.3.16　4月5、6日奏楽堂；慈善大音楽会　読　明治40.3.16「…（六）ピヤノウィオラ合奏ケーベル博士、ユンケル氏…」；慈善大音楽会　朝　明治40.4.1「…六、ピアノ、ヴィオラ合奏、ソナタ（ケーベル博士、ユンケル氏）…」；慈善大音楽会　東　明治40.4.7「…第六回のケベール博士ユンケル教授両雄の合奏は特に其妙を極め艶麗なるルービンスタインの曲趣を表はし得て遺憾なかりき…」

あやめ会大音楽会　東　明治40.9.30　10月26、27日奏楽堂「…ケーベル博士…」；あやめ会大音楽会　朝　明治40.10.8「…ケーベル博士…」；＊慈善音楽会　東　明治40.10.9；慈善音楽会二日目番組　東　明治40.10.10「…（六）ピアノヴワイオリン聯奏（ベトーヴェン作ソナタ）ケーベル博士、ユンケル教授…」；＊本郷教会あやめ会慈善音楽会　朝　明治40.10.20；＊あやめ会の慈善音楽会　朝　明治40.10.27

独唱家フレック嬢紹介演奏会　東　明治40.11.14「…同校教授ユンケル、ケーベルの両氏…」

＊東京音楽学校秋季演奏会　読　明治40.12.6　12月14、15日奏楽堂；＊東京音楽学校演奏会　読　明治40.12.8；東京音楽学校秋季演奏会　東　明治40.12.12「…ピアノ五部合奏（甲）アレグロブリランテ（乙）イン、モト、ドナ、マルチア（丙）スケールツオ（ヴィヴァチェ）（丁）アレグロ、マ、ノン、トロッポ、教師ユンケル、ハイドリッヒ、マイステル、コイベル教授幸田延子」；音楽演奏会　読　明治40.12.12「…ピアノ五部合奏（コイベル、ユンケル、ハイドリヒ、幸田延、マイステル）」；＊音楽会　朝　明治40.12.14；＊今明両日東京音楽学校演奏会に於て其嬌音を弄すべき独唱家フレック嬢　読　明治40.12.14；音楽会　一素人　読　明治40.12.15「…ケーベル博士がピアノを弾くのだった…

シューマンの五部合奏曲を演奏した。流石に斯界の大家が揃っての事だから誠に結構で、聴衆酔へるが如し…」；音楽学校秋季大音楽会　毎日電報　明治40.12.16「…演者コイベル、ユンケル、ハイドリッシュ、マイステル、幸田教授の名人揃悪しき筈なく就中コイベル博士は老て益々熾にてマエストソのメロデーはそゞろ崇高の念に打れたり…」；＊東京音楽学校演奏会　萬朝報　明治40.12.16；音楽学校秋季演奏会　時事新報　明治40.12.17「…コイベル博士のピアノ又は特に一段の妙技を発揮して遺憾なし…」；＊東京音楽学校演奏会評　丁六　日本　明治40.12.18；＊東京音楽学校演奏会評　丁六　日本　明治40.12.19；東京音楽学校演奏会評　丁六　日本　明治40.12.20「…ケーベル博士のピアノを加へて五部合奏の室内楽である…ケーベル博士のピアノ、巧なるは云ふまでも無けれど、シウマンの此曲の如きは却ってハイドリヒ氏の方適切では無かったらうかとも思はれる…」

＊音楽学校専科　東　明治40.12.28；音楽学校専科拡張　東　明治41.2.10「…湯原校長は諄々と音楽普及の熱望と方策とを以て是等雇外国教師に説きし結果ユンケル、ケーベル、ハインドリヒ、マイステルの四氏並にフレック嬢共打揃ひて校長の意を諒とし今後尠くとも月一回は必ず臨場して各得意の手腕を揮ひて之に勉むる事を諾したれば今後に於ける分教場の発展は見るべきものあるべしとなり」

趣味　読　明治41.1.3　出版広告「…日本の音楽ケーベル博士…」

楽界漫言　北村季晴　読　明治41.2.16

中央音楽団　読　明治41.3.4　3月8日上野公園竹の台音楽堂「…兵士の生活（接続曲）ケーベル作…」；中央音楽団演奏会　朝　明治41.3.7「…兵士の生活（ケーベル）…」；上野公園音楽堂演奏　東　明治41.3.7「…兵士の生活（接続曲）ケーベル作…」

＊築地路加病院拡張音楽会　東　明治41.6.17　6月20日奏楽堂；慈善大音楽会　東　明治41.6.21「…満堂立錐の余地なく近来稀なる盛況なりき曲はケーベル、ユンケル、ウエルクマイステル三氏のピアノ、ヴァイオリン、セロ合奏シューバート曲に始まり…」

音楽学校演奏会　東　明治42.3.22　3月28日奏楽堂「…ヴィオロンチェロ、コンセルト（ドボジャーク作曲）ウエルクマイスター氏、ケーベル教授…ヴィオロンチェロ及びピアノ合奏　ソナーテ（ベートーヴェン作曲）ケーベル博士ウエルクマイスター氏…ピアノ四部合奏　アラツインガレサ（ブラームス作曲）ケーベル、ユンケル、幸田、ウエルマイスターの四氏」；音楽学校演奏会　読　明治42.3.22「…（二）ヴィオロンチェロ、コンセルト「ドボジャーク作曲」ウエルクマイスター氏、ケーベル教授…（四）ヴィオロンチェロ及びピアノ合奏、ソナーテ「ベートーヴェン作曲」ケーベル博士、ウエルクマイスター氏…（八）ピアノ四部合奏、アラツインガレサ「ブラームス作曲」ケーベル、ユンケル、幸田、ウエルマイスターの四氏」；音楽会広告　東　明治42.3.25「…ケーベル博士…」；音楽会広告　読　明治42.3.25「…ケーベル博士…」；音楽会広告　読　明治42.3.27「…

ケーベル博士…」

隣の噂　読　明治42.9.17「音楽学校に十五年間も務めて居た教授コエベル博士も学校の内部が面白くないので久しく辞意を有して居るが…」

独身婦人傳東京音楽学校教授橘糸重女史　東　明治44.3.2「…女史は明治廿五年音楽学校を卒業し次いで研究科に入りケーベル博士が誘導の下に洋琴の薀技を極め天才とよりは寧ろ研磨の功成って卅六七年頃には既に立派なケーベルスタイルのテクニックを持った名手として音楽学校の教授となった…」

ケーベル先生（上）　漱石　朝　明治44.7.16

ケーベル先生（下）　漱石　朝　明治44.7.17

学界の恩人ケーベル博士勲三等に叙され瑞宝章を贈与さる　読　大正3.6.30「東京帝国大学文科大学講師ケーベル博士は在職二十五年今般帰国に付き勲三等に叙され…」

Dr. von Koeber—Philosophy Professor Now on his Way Home. JWM 1914.7.18「Dr. Raphael von Koeber, until recently Professor of Occidental Philosophy in the Imperial University of Tokyo, left for Europe on Sunday for permanent residence... "Any interesting remarks about Japan and her people?" asked a representative of the "*Japan Mail*," thinking that the professor would give some epigrammatic advice to the Japanese. The professor smilingly replied: "I expected nothing interesting in Japan or her people when I came here, and I should have nothing interesting to tell." ...Asked about his plan after he returns to Europe, he said: "I can not tell what I shall do in the future; I only know what I am doing and what I should do at this very moment." ...
Many friends and pupils of the doctor proposed a farewell reception in his honour, but the professor declined the offer. "Wherever I go and Wherever I live, I will cherish happy memories of your kindness," was his reply. He did not like a fuss to be made over him in society and he quietly stayed at home reading and studying music. Music was his hobby, and not a day during the past thirty years passed without his devoting one or two hours to the conscientious study of music. He is known as a musician of wide knowledge and ability; prominent Japanese musicians such as Mrs. Ando, Mrs. Koda, Miss Tachibana, and Mrs. Kambe are all his pupils...」

ケーベル先生の告別　漱石　朝　大正3.8.12

戦争から来た行違い　漱石　朝　大正3.8.13

ケーベル老博士—曾て東大哲学科の権威露国領事館の一室に侘住：四つ五つの起上小法師を毎日机上の友として　朝　大正7.10.11「…博士の音楽—殊にピアノは哲学と共に天才的技倆を有して居るが今では種種のコンサルトにも儀礼が億劫になって数年来顔出しせず稀に領事館に客来の時抔に頼まれて弾く位のもの多く「頭脳で考へ頭脳で聴く」とて時々音

譜を読で娯まれる…」

日本は第二の故郷—ケエベル博士を訪ふの記　読　大正9.3.14

初めて覚えた畜生の言葉—船を待つ事八年のケーベル物語　都　大正11.3.30

破戸漢豚から老爺襯衣—ケーベル博士の奇妙な日本語　都　大正11.3.31

昨今のケ博士室内で瞑想し—ピアノも手にせず音楽に遠かる　都　大正11.4.1「…我帝大の教授として赴任した後も、博士の邸であった神田駿河台の一室から洩れる音律の妙になるに道往く人は足を阻めて調の床しさに恍惚する程であった、我利々々亡者連からは種々の名目に事寄せて博士を演奏堂に立たせようとした、或ひは又知名の士で博士と知り合な人を介してまで博士を動かそうとした人も尠くはなかったが博士は頑としてそれを聞き容れなかった…」

我哲学界の恩師ケーベル博士危篤—横浜領事館に九年間の蟄居女嫌ひの大沈黙家／食欲はない　真鍋学士談　朝　大正12.6.14

ケーベル博士逝く—昨暁横浜露領事館で　朝　大正12.6.15　同一記事が読売新聞にも同日掲載される

ケーベル博士逝く—門下生に囲まれて　朝　大正12.6.15

ケ博士は青山墓地に　朝　大正12.6.16

ケーベル先生の訃を悼む—先生は臨終の間際まで「ファウスト」を手離なかった　和辻哲郎　読　大正12.6.16

ケーベル先生に就いて　和辻哲郎　読　大正12.6.20

哲学者の静かな死　水島浩平　朝　大正12.7.9「…室は、灰色に乾き切ってゐる…『今、いゝ音楽を聞いたら、少しは、この苦しみから楽になれる様に思ふ。』暫くして、また言をつながれる。『あのバルダス氏が上野の音楽学校でどんな教授振りをするか、それが見たい』…」

ケーベルに関する新聞記事を調査するにあたっては、日本近代音楽館編『〈明治の洋楽〉データベース』（同館のプロジェクト「新聞記事にみる日本の洋楽」による）に負うところ大であった。ここにその名を記して感謝の意を表したい。